

第47回 平成23年度 関東甲越地区肢体不自由特別支援学校 PTA連合会
総会 及び PTA・校長会合同研究協議会 茨城大会

第一分科会 「PTA活動の活性化」

イベントを活用した会員相互の交流 発表資料

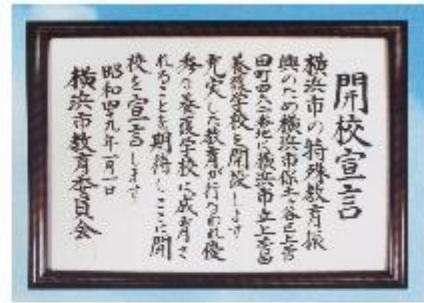
第1分科会

**PTA活動の活性化
イベントを活用した会員相互の交流**



横浜市立上菅田特別支援学校 PTA

1 横浜市立上菅田特別支援学校の概要



本校は昭和 49 年4月に開校した、横浜市内で最初に作られた肢体不自由特別支援学校です。今年で開校 38 年目になります。

上菅田特別支援学校の場所は？

A map of the Kanto region in Japan, showing the prefectures of Saitama, Chiba, and Kanagawa. A red arrow points to the location of Kamikudam in Yokohama. The map includes major cities, roads, and geographical features.A photograph of a large, open field, possibly a sports field or a park. The field is mostly empty, with some trees and a fence in the background.A photograph of a green field, likely a vegetable field or a park. The field is filled with rows of green plants, possibly cabbages or other vegetables.A photograph of the Yokohama cityscape, showing the skyline with several tall buildings and a body of water in the foreground.

所在地は、人口約 367 万人の大規模都市である横浜市のほぼ中央、保土ヶ谷区上菅田町です。横浜というと、山下公園やみなとみらいの風景を思い浮かべる方が多いと思いますが、学校周辺は緑も多く、近くにはキャベツ畑や牛小屋などもある、自然に恵まれた地域です。



平成23年度

小学部	96名
中学部	57名
高等部	59名
教職員	165名



小学部・中学部・高等部の3学部があり、児童生徒数は212名(5月現在)、教職員数は165名で、横浜市にある肢体不自由児校5校のなかで、もっとも大きな学校です。児童生徒は、横浜市内のほぼ全域から10台のスクールバスに乗って登校してきます。



上菅田の子どもたち



学校ホームページより <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/kamisugeta/>

子どもたちの94%は重複障害で病名はさまざまです。明るく元気に、自立に向けて頑張っています。

2 PTAの歴史



昭和53年 進路委員会 人形作り



昭和57年 第8回PTAバザー



昭和57年 第7回文化祭PTAコーナー



昭和50年12月1日
第1回PTAバザー



昭和57年 進路のために図書整備作業

開校から半年後、昭和 49 年 9 月にプレハブの仮校舎へ移転と同時にPTAが設立されました。

当時は小学部・中学部のみ生徒数も 75 名と少なく保護者が学校に付き添うことも多かったことから、保護者同士や教職員との連携もよく円滑にPTAが組織されていきました。

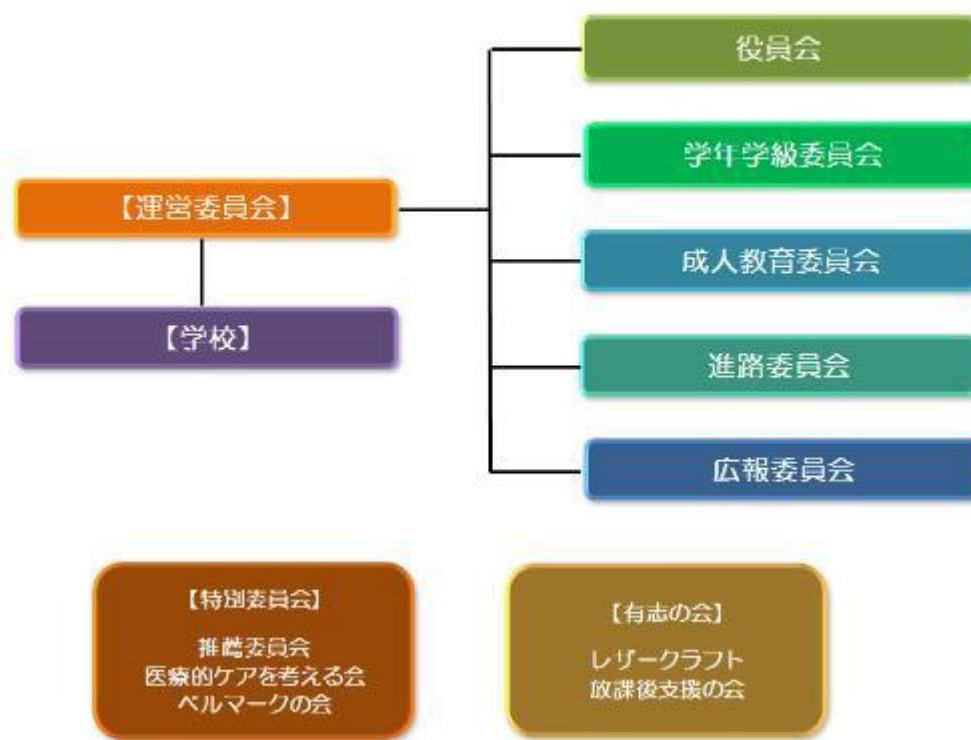
創立当初は高等部がなかったため、PTAが行政へ高等部設置を積極的に働きかけ、昭和 52 年 4 月に高等部が開校できました。

本校舎の落成後、昭和 50 年には第 1 回目のPTA主催のバザーが開催され、以後現在まで毎年行われています。

卒業後の進路先不安・在宅にならないようにと作業所設立の資金作りのため、図書館から本の表紙を補修する仕事を請け負い、保護者・教員が一緒になって作業した時代もありました。

現在の「ふれあい基金」は、
この図書整備の収入がスタートでした。

3 PTAの組織



PTAは、次のような組織で構成されています。

- (1) 常設委員会
 - ・役員会
総会運営、全体とりまとめ、書記、会計、渉外活動など。
 - ・学年学級委員会
各学年のとりまとめ、校長先生と語ろう会の運営など。
 - ・成人教育委員会
新転入会員歓迎会、卒業生保護者を祝う会、研修会企画など。
 - ・進路委員会
施設見学会、卒業生および保護者を招いての勉強会など。
 - ・広報委員会
広報誌の企画、編集など。

- (2) 特別委員会
 - ・推薦委員会
次年度役員を選出。
 - ・医療的ケアを考える会
校内検討委員会への参加、他校との意見交換など。
 - ・ベルマークの会
ベルマークの収集とりまとめ、集計など。

- (3) 有志の会
 - ・レザークラフト
在校生および卒業生保護者によるレザークラフト制作。
 - ・放課後支援の会
運動・音楽プログラム、ヘアカット、ランチ会など。

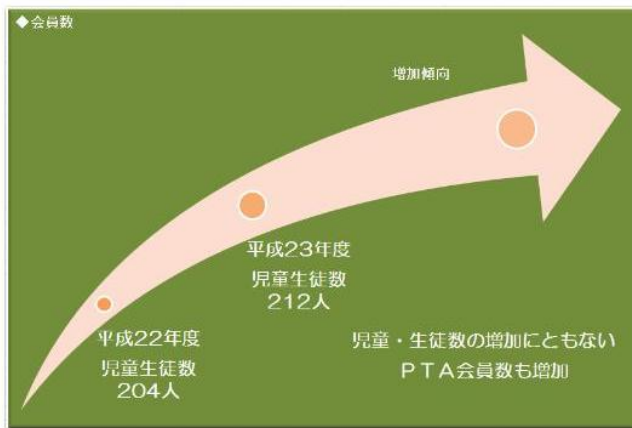
4 現状と想定される問題点



PTA をとりまく現状と想定される問題点を、次の3つに分類して考えてみましょう。

6

(1) 会員



本校は通学課程のみの肢体不自由校で、児童生徒数200名を越える大規模校です。新年度の転入学者数は、毎年30名を越えており、会員数は毎年10名程度増加しています。

人数が多いことの問題点として、全員参加の行事は運営が困難になったり、役員や委員になった一部の人がPTA活動に参加するような状況になってしまう可能性があります。

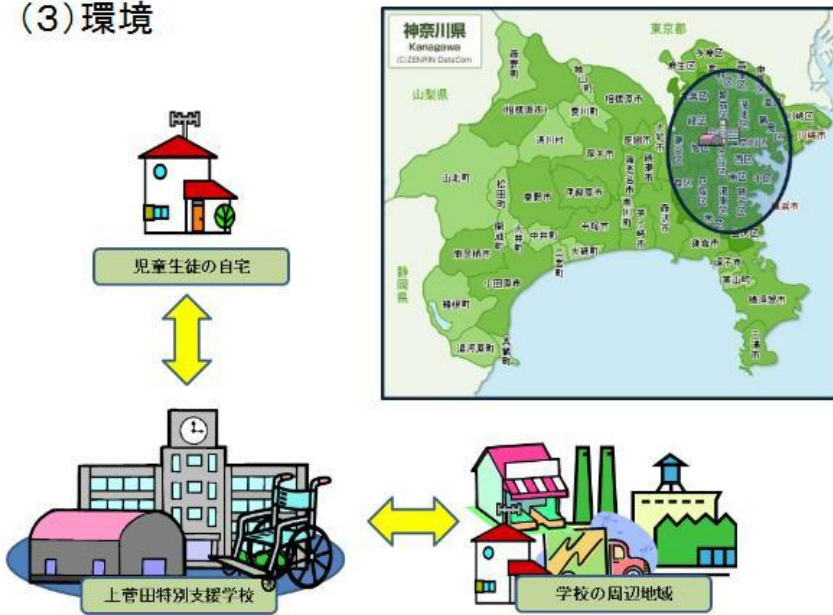
(2) 組織



通常のPTA活動は、役員と委員会の委員長、校長、副校長、教務主任からなる運営委員会を中心に行われています。役員会は全般的な活動を行いますが、各委員会は独立した役割を担い、年間計画に基づいてそれぞれの活動を行っています。

各委員会には直接的な接点はなく、所属する委員会以外の活動が見えにくい、委員会どうしがコミュニケーションをとる機会がないなどの問題が起こる可能性があります。

(3) 環境



本校の通学域は横浜市内ほぼ全域にわたります。児童生徒の居住地域が広範囲におよぶため、生活域と学校間がスクールバスで1時間以上かかるなど、遠く離れているケースもあります。児童生徒の多くはスクールバスを利用して通学しているため、保護者は行事以外で学校に来る機会が少なく、学校周辺の住民、企業・商店、地域交流校などと接点が持ちにくい状況となっています。周辺地域の住民にとっては、本校に家族や近所の子どもが通っているケースが少なく、身近にありながら遠い存在になっています。

バザーの守り神?!



毎年10月に開催している
PTAバザーを通して
考えてみよう!

想定される問題点に対し、実際の状況について、PTAバザーを通して考えてみたいと思います。

5 どんなバザーなのか？

《PTAバザー開催の趣旨》

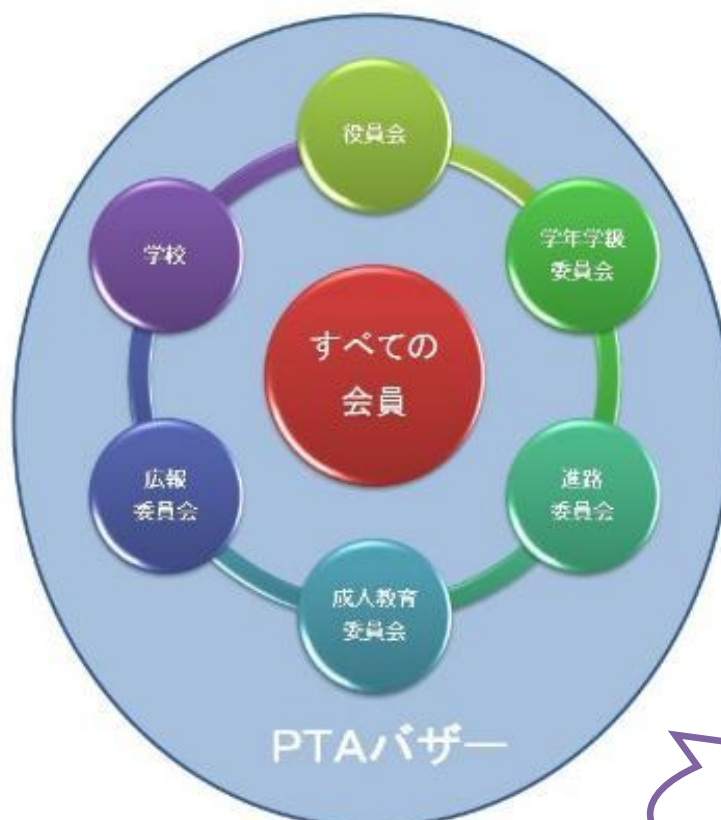
PTA行事バザー開催により
会員の交流をはかる

地域の方との交流を深める

児童・生徒の生活経験の場を増やす

バザーには、開催の趣旨があります。この3つの柱を目的として、実施しています。

【1】 PTA行事バザー開催により会員の交流をはかる。



みんながつながる
全員参加バザー！

●一部の PTA 会員が行うバザーではなく全員がバザーに関われるようにしたい。

- 全員が売り場に立つ。
すべての会員が売り場担当になることで全員参加のバザーになる

●今までバラバラに活動してきた委員会をつなげたい。

- 各委員会がバザーの仕事をする。
各委員会は通常の活動とは別にバザーでの役割を担うことで、
委員会同士のつながりもできる。

【各委員会の役割】



10月の開催に向けて4月から準備開始！

全員参加のバザー 学校は？

- ◆ 保護者全員 → 売り場商品の準備
- ◆ 教職員 → 会場設営準備(前日)



PTA 渉外担当の先生4名が保護者とのパイプ役に。

バザー会場



バザー会場は大きくわけて3か所あります。
その年ごとに、学年学級委員会が話し合い、晴れ、雨、天候によって場所を変更します。

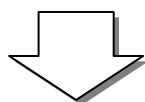


晴れの場合
・校庭
・バスターミナル
(体育館は休憩所として使用)



雨の場合
・体育館
・バスターミナル

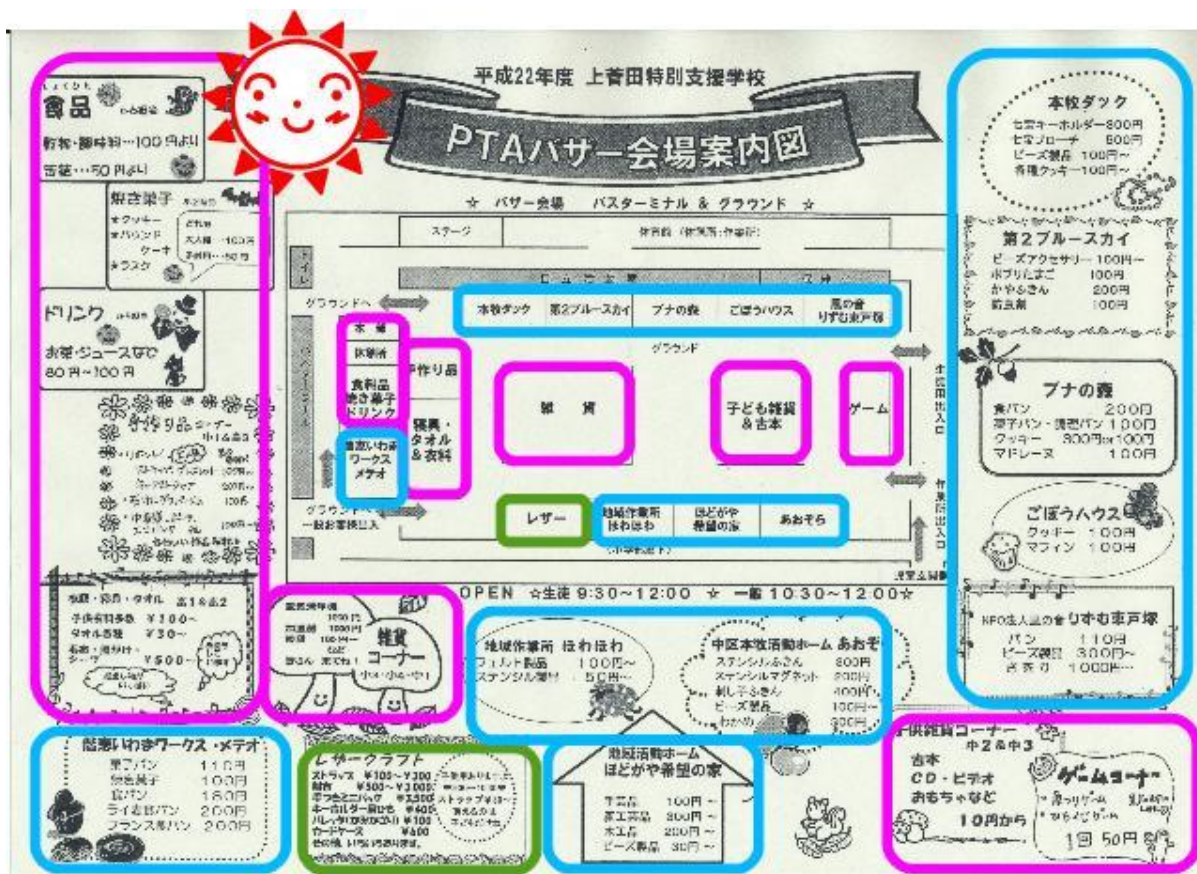
当日の会場は・・・



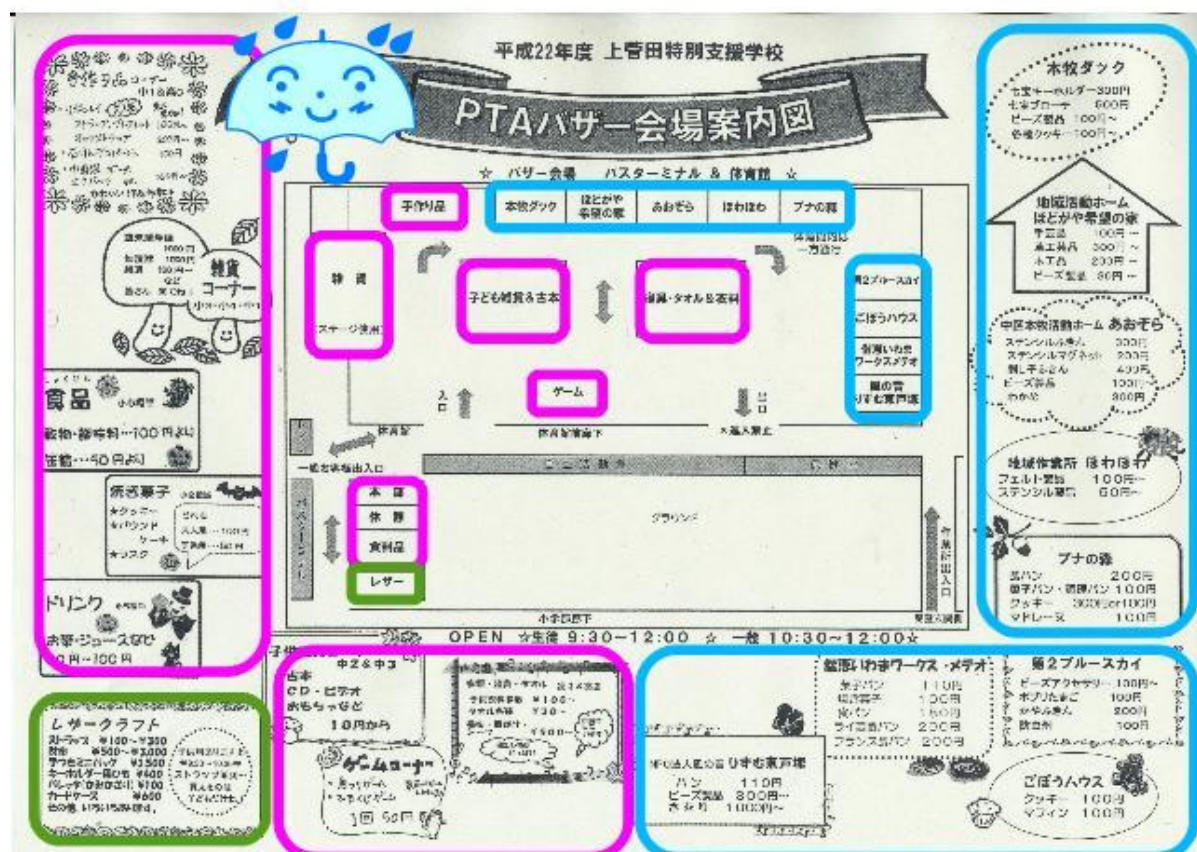
【会場案内図の例】

■→PTA保護者 ■→作業所 ■→有志の会

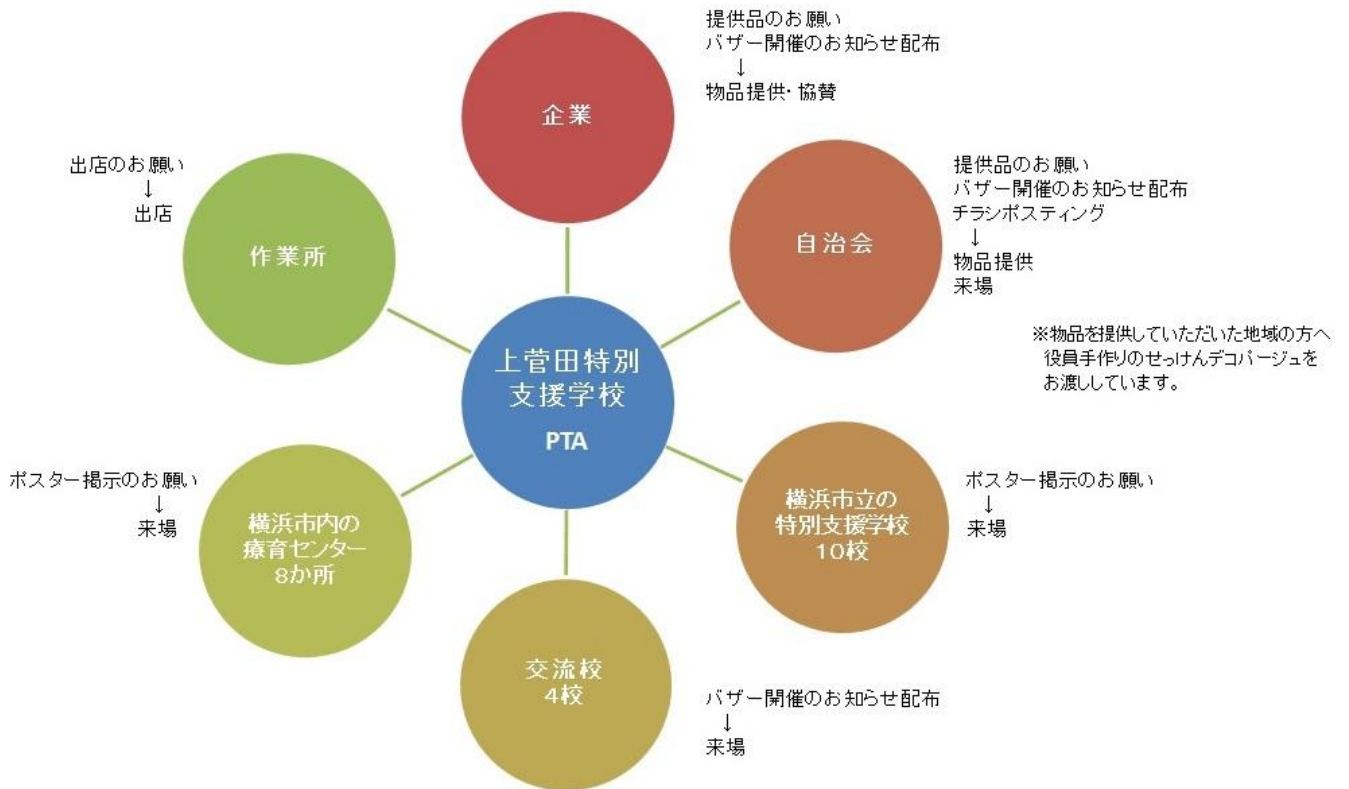
晴れバージョン



雨バージョン



【2】 地域の方との交流を深める。



来場していただくことが 交流の第一歩 と考え、PR 活動に力を入れています。



バザー当日は、会場に協賛企業の一覧を掲示します。
例年、たくさんの地域の方にご来場いただいています。

【3】 児童・生徒の生活経験の場を増やす。

◆バザータイムスケジュール

- ・当日準備開始時間…… 9：00～
- ・開会式…………… 9：25頃
- ・バザー開始時間…… 9：30～
保護者…準備をしながら開店
児童生徒…教員または校内介助員とともに
買い物体験。
小遣い1000円程度・エコバック持参
(買い物リスト持参)
- ・一般客入場…………… 10：30～
(値下げ)…………… 11：30
- ・バザー終了時間…… 12：00
- ・片付け、売上清算、昼食
- ・閉会式…………… 13：30 (昨年)



バザー当日、児童生徒は 授業の一環 としてお買い物体験をします。
先生や介助員さんといっしょに、お小遣いとエコバックを持って売り場をまわります。
混雑による危険を考慮し、一般入場より先に児童生徒の買い物を始めるなど、工夫しています。



6 バザーの効果は？

◆保護者全員が関わられるようにしたい

準備・当日の各対応は各委員会で分担

- ・どの委員会もみんなが同じ目標に向かって、一体感、達成感を感じることができた。
- ・他の委員会と話し合いながら進めることで、お互いの仕事を理解することができた。

全員が売り場担当

- ・みんなで協力して売ることができ、楽しかった。
- ・他学年の母たちや子供たちの交流ができてよかった。
- ・学年で協力し販売することで、さらに学年のお母さん同士が仲良くなった。



◆地域の皆さんにたくさん来ていただきたい

平成22年度の一般来場者数 約250名以上

- ・入場の1時間前から何人もの方が並んで待っていた。
- ・初めてこられるかたより、リピーターの方が多かった。
- ・家族の知り合いではない方がたくさん来てくれた。
- ・たくさんのおバザー提供品を協賛企業、地域住民の方が届けてくれた。
- ・近隣の小学校（個別支援級）の子どもたちがお買い物体験に来てくれた。



◆先生や子どもたちにも買物を楽しんでもらいたい

授業の一環としての買い物体験

- ・子どもはお祭りのような楽しさを味わえると思う。
- ・普段体験させてあげられない買物がゆっくりとでき、とても喜んで帰ってきた。
- ・買物をしたものを家族に自慢げに配っていた。
- ・お母さんから頼まれたものを買うのではなく、お小遣いを握りしめ自分の目で選んで好きなものを買えることが貴重な体験だと思った。



◆その他の効果

作業所の出店

- ・卒業生とのコミュニケーションの場になった。
- ・親や地域の方が作業所を知るきっかけとなった。

※ 作業所側としても売る練習の場になるそうです

売上の活用

- ・PTA『ふれあい基金』に入れ、子どもたち、学校全体に役立つことに使っている。
- ・「夏のつどい」を企画・実施（夏休みの2日間）
平成22年度 影絵劇団「かかし座」公演
インドネシア竹製民族楽器演奏グループ「ソアラバンブー」公演
- ・東日本大震災義援金
- ・保護者用げた箱
- ・運動会用テント
- ・来客用スリッパ
- ・CD・DVD・絵本



【ふれあい基金の使用例】平成22年度 夏のつどい 夏季支援事業として実施

- ・ 影絵劇団 かかし座 公演
- ・ インドネシア竹製民族楽器演奏グループ ソアラバンブー 公演



効果のまとめ

☆会員間のコミュニケーションに、
大変効果があった

☆地域の方とも交流でき、
本校に対する理解を深めていただけた。

☆児童生徒にとっても様々な人とふれあい、
買い物という生活経験をする貴重な
機会になった。



7 今後の課題は？



少数から不満の声もあがるけれど・・・

歴史と実績と意味のある
『PTAバザー』を継続していこう！



『PTAバザー』継続していくためには

- ・ 会員にいま一度、バザーを実施する意味を伝えて気持ちを共有していく。
- ・ 毎年 バザー実施要項を運営委員会にて見直し、その年の状況に合わせて変えていく。

進化し続けるPTAバザー！

さらに、子どもたちのためだけでなく、
保護者ひとりひとりのパワーを発揮できる場として。
そして、子どもたちの明るい未来づくりに活かしたら…